

宮城県商工会 地区中小企業景況調査報告書

2019年7月～9月期

目 次

1. 県下産業全体の景況	2
(1) 主要景況項目のあらまし	2
(2) 全国・東北ブロックおよび本県景況のあらまし	3
(3) 今後の見通しについて	4
2. 県下産業別の景況	5
(1) 製造業の動向	5
(2) 建設業の動向	8
(3) 小売業の動向	11
(4) サービス業の動向	14

2019年10月

宮城県商工会連合会

中小企業景況調査報告書

2019年7月～9月

[調査要領]

1. 調査対象

- (1) 対象地区 宮城県内10商工会地区
(調査対象商工会名) 名取市商工会、大河原町商工会、みやぎ仙台商工会、くろかわ商工会、加美商工会、遠田商工会、若柳金成商工会、みやぎ北上商工会、石巻かほく商工会、本吉唐桑商工会
- (2) 対象企業数 150企業
- (3) 回答企業数 146企業

2. 調査対象期間

2019年7月～9月期を対象として、調査時点は2019年9月1日とした。

3. 調査方法

- (1) 商工会の経営指導員による訪問面接調査。
- (2) 対象企業の抽出は、商工会に於いて、業種・規模等有意選定。

4. 回答企業内訳

業 種	企 業 数
製 造 業	31
建 設 業	26
小 売 業	42
サービス業	47
合 計	146

5. そ の 他

本報告書中のDIとは、ディフュージョン・インデックス(景気動向指数)の略で、各調査項目についての増加(上昇・好転)企業割合と減少(低下・悪化)企業割合の差を示すものである。

1. 県下産業全体の景況

(1) 主要景況項目のあらまし

① 業況D I の状況と来期見通し

県下商工会地区における今期(2019年7月～9月期)の調査において、産業全体(全産業)の業況D I(前年同期との比較D I、以下同じ)は、前期より2.0ポイントの改善で△40.6(前期△42.6)となった。産業別にみると、製造業が△54.9(前期△48.4)と△6.5ポイント悪化、建設業で△30.8(前期△34.6)と3.8ポイント改善、小売業で△48.9(前期△73.2)と24.3ポイント改善、サービス業では△28.9(前期△15.6)と△13.3ポイントの悪化となった。

来期見通しについては、産業全体(全産業)としては改善の見通しである。産業別にみると、製造業・建設業については改善の見通し、小売業については悪化の見通し、サービス業については若干の悪化見通しである。

表一1 業況D I の状況と来期見通し (前年同期比・D I)

業種	前期	今期	来期見通し
全産業	△ 42.6	△ 40.6	△ 36.6
製造業	△ 48.4	△ 54.9	△ 29.0
建設業	△ 34.6	△ 30.8	△ 26.9
小売業	△ 73.2	△ 48.9	△ 56.1
サービス業	△ 15.6	△ 28.9	△ 29.6

② 設備投資の状況と来期計画

新規投資の実施比率は、製造業では16.1%で前期比3.2ポイント増加、建設業では11.5%で前期比△3.9ポイント減少、小売業では11.9%で前期比7.0ポイントの増加、サービス業では14.9%と前期比1.9ポイントの増加であった。

来期に設備投資を計画している企業は、今期に比べ製造業で減少、建設業で増加、小売業で減少、サービス業では増加となっている。

表一2 設備投資の状況と来期計画 (企業割合・%)

業種	前期	今期	来期計画
製造業	12.9	16.1	9.7
建設業	15.4	11.5	15.4
小売業	4.9	11.9	9.5
サービス業	13.0	14.9	19.1

(2) 全国・東北ブロックおよび本県景況のあらまし

① 売上額（完成工事額）

2019年9月調査の日銀短観で、「中小企業の業況判断指数（D I）は前期（2019年6月調査）と比較して、製造業が△3ポイント悪化のマイナス4、非製造業は横ばいのプラス10だった。先行きは製造業、非製造業共に今期に比べ悪化を見込んでいる」と発表された。

宮城の今期売上額（完成工事額）D Iは、全業種でマイナス値であった。前期との比較では製造業で悪化、建設業・小売業・サービス業で改善となった。

今期の宮城の全国・東北との売上額D I比較では、製造業・建設業・小売業・サービス業全てで全国・東北以下であった。

表－3 売上額（完成工事額）の状況（前年同期比・D I）

区分 業種	全 国		東 北		宮 城	
	前 期	今 期	前 期	今 期	前 期	今 期
製 造 業	△ 15.3	△ 19.8	△ 31.1	△ 30.4	△ 28.9	△ 32.2
建 設 業	△ 2.2	△ 2.3	△ 20.2	△ 21.5	△ 42.3	△ 34.6
小 売 業	△ 29.8	△ 35.4	△ 42.6	△ 45.1	△ 65.8	△ 49.9
サービス業	△ 12.8	△ 19.6	△ 26.9	△ 24.6	△ 27.7	△ 26.1

② 採 算

宮城の今期の採算D Iは、全業種でマイナス値であった。前期との比較では、製造業・小売業で改善、建設業・サービス業で悪化となった。

今期の宮城の全国・東北との採算D I比較では、製造業・建設業・サービス業では全国・東北以下、小売業では全国以下で、東北よりは若干上回った。

表－4 採算の状況（前年同期比・D I）

区分 業種	全 国		東 北		宮 城	
	前 期	今 期	前 期	今 期	前 期	今 期
製 造 業	△ 20.4	△ 21.2	△ 37.0	△ 31.3	△ 45.1	△ 35.4
建 設 業	△ 8.2	△ 9.1	△ 18.2	△ 22.8	△ 34.7	△ 42.3
小 売 業	△ 31.6	△ 32.0	△ 40.9	△ 42.9	△ 67.5	△ 42.8
サービス業	△ 19.8	△ 21.4	△ 29.5	△ 28.4	△ 23.9	△ 40.0

(3) 今後の見通しについて

① 県下産業全般の主要項目来期見通し

宮城の売上額（完成工事額）来期見通しD I（2019年10月～12月期）では、今期状況D Iとの比較で、製造業で横ばい、建設業で△19.3ポイントの悪化、小売業で△2.4ポイントの悪化、サービス業では横ばいの見通しとなった。

採算来期見通しD Iでは、今期状況D Iとの比較で、製造業で12.9ポイントの改善、建設業で3.8ポイントの改善、小売業で△11.9ポイントの悪化、サービス業で8.9ポイントの改善見通しとなった。

② 全国と本県企業の来期見通し比較

今期と来期見通しとの比較において、製造業では売上は全国で若干の悪化、宮城で横ばい、採算では全国で改善、宮城でも改善の見通しとなった。建設業では売上は全国で悪化、宮城でも悪化、採算は全国で悪化、宮城では改善の見通しとなった。小売業では売上は全国で悪化、宮城でも悪化の見通し、採算では全国で若干の悪化、宮城で悪化の見通しとなった。サービス業では売上は全国で若干の改善、宮城で横ばいの見通し、採算は全国で悪化、宮城で改善の見通しとなった。

表－5 売上額（完成工事額）の状況と見通し（前年同期比・D I）

区分 業種	全 国		宮 城	
	今期状況	来期見通し	今期状況	来期見通し
製 造 業	△ 19.8	△ 20.3	△ 32.2	△ 32.2
建 設 業	△ 2.3	△ 10.6	△ 34.6	△ 53.9
小 売 業	△ 35.4	△ 36.7	△ 49.9	△ 52.3
サービス業	△ 19.6	△ 18.9	△ 26.1	△ 26.1

表－6 採算の状況と見通し（前年同期比・D I）

区分 業種	全 国		宮 城	
	今期状況	来期見通し	今期状況	来期見通し
製 造 業	△ 21.2	△ 19.1	△ 35.4	△ 22.5
建 設 業	△ 9.1	△ 14.3	△ 42.3	△ 38.5
小 売 業	△ 32.0	△ 32.6	△ 42.8	△ 54.7
サービス業	△ 21.4	△ 23.5	△ 40.0	△ 31.1

2. 県下産業別の景況

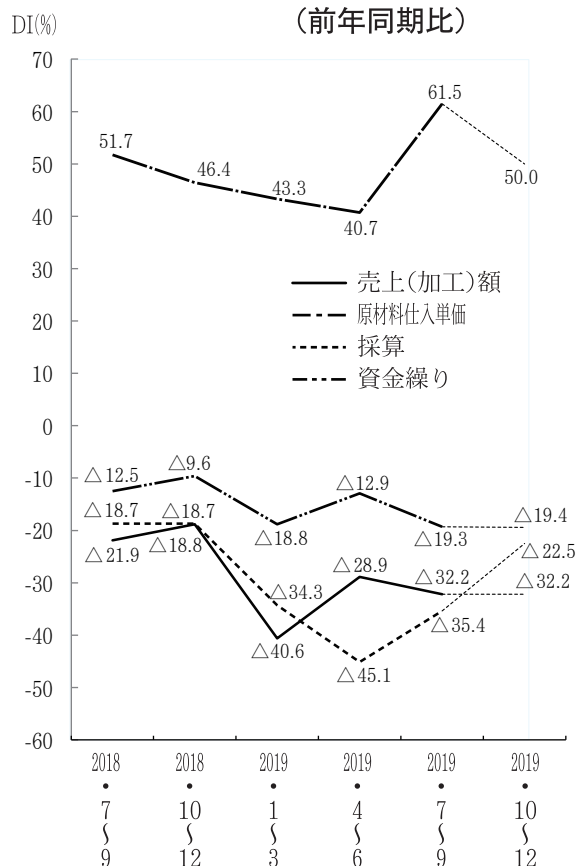
(1) 製造業の動向

① 主要景況項目から見たあらまし

前年同期比D Iは、売上（加工）額D Iが今期△32.2（前期△28.9）となり△3.3ポイント前期より悪化、採算D Iは今期△35.4（前期△45.1）で9.7ポイント改善、資金繰りD Iでは今期△19.3（前期△12.9）で△6.4ポイント悪化した。

原材料仕入単価は今期 61.5（前期 40.7）と 20.8ポイント上昇した。

図1-1 主要景況項目の推移
(前年同期比)



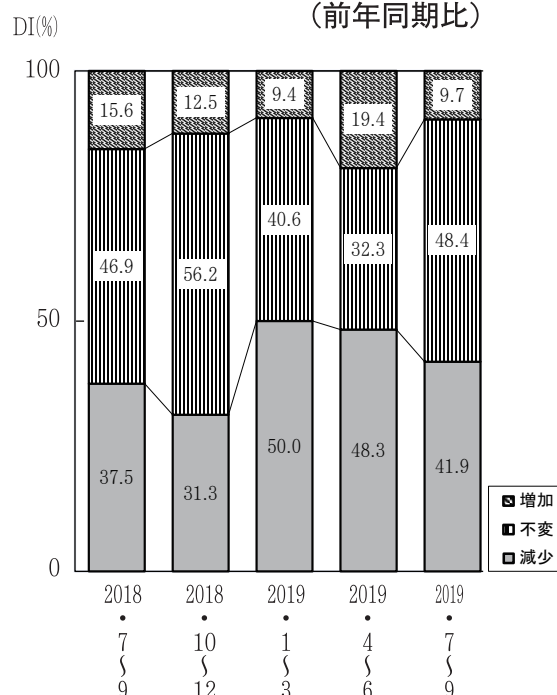
② 主要景況項目別状況

(a) 売上(加工)額

「増加」と回答した企業は、全体の9.7%（前期19.4%）と△9.7ポイント減少、「減少」と回答した企業も41.9%（前期48.3%）と△6.4ポイント減少した。

その結果、売上（加工）額D Iは△32.2（前期△28.9）となり前期比△3.3ポイント悪化した。

図1-2 売上(加工)額の状況
(前年同期比)

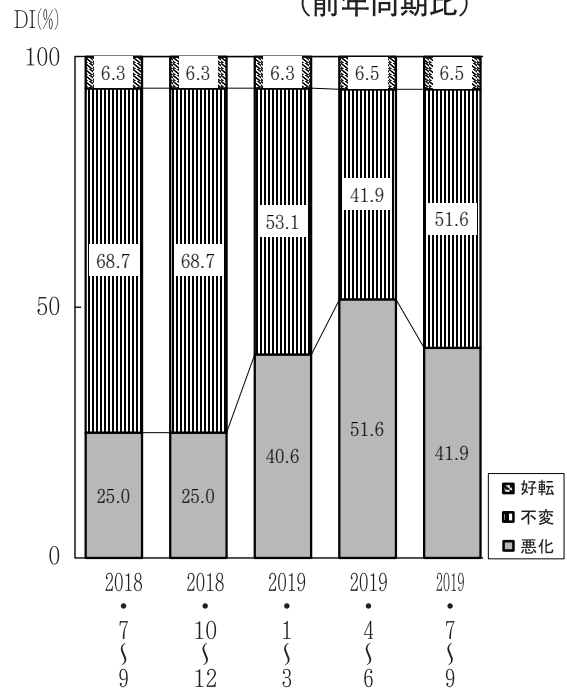


(b) 採 算

「好転」と回答した企業は全体の 6.5% (前期 6.5%) で横ばい、「悪化」と回答した企業は 41.9% (前期 51.6%) で△9.7 ポイント減少した。

その結果、採算DIは△35.4 (前期△45.1) で前期より 9.7 ポイント改善した。

図 1 - 3 採算の状況 (前年同期比)



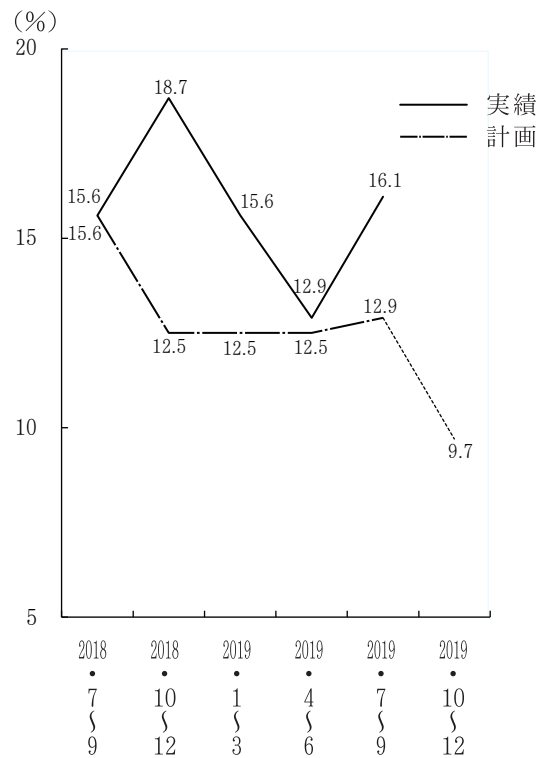
(c) 設 備 投 資

今期の新規投資実施 (実績) 企業割合は全体の 16.1% (前期 12.9%) で、前期と比べ 3.2 ポイント増加した。

その設備内容は、工場建物、生産設備、車両・運搬具、OA機器であった。

来期に設備投資を計画している企業は全体の 9.7% で、その設備内容は、生産設備、その他となっている。

図 1 - 4 設備投資の状況

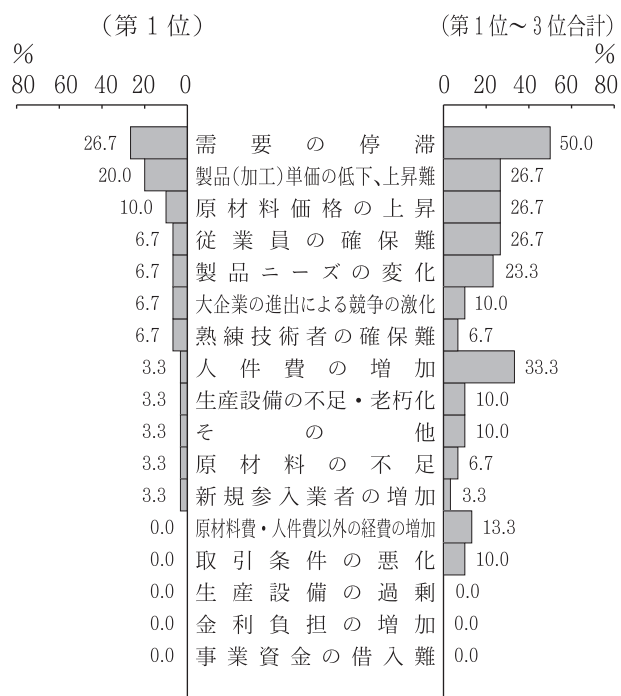


(d) 経営上の問題点

重要度第1位の問題点は「需要の停滞」で26.7%、次いで「製品（加工）単価の低下、上昇難」が20.0%、「原材料価格の上昇」が10.0%で続いた。

重要度第1位から第3位合計でも「需要の停滞」が50.0%（複数回答計、以下同じ）で最上位、次いで「人件費の増加」が33.3%、「製品（加工）単価の低下、上昇難」、「原材料価格の上昇」、「従業員の確保難」が同率26.7%で続いた。

図1-5 経営上の問題点



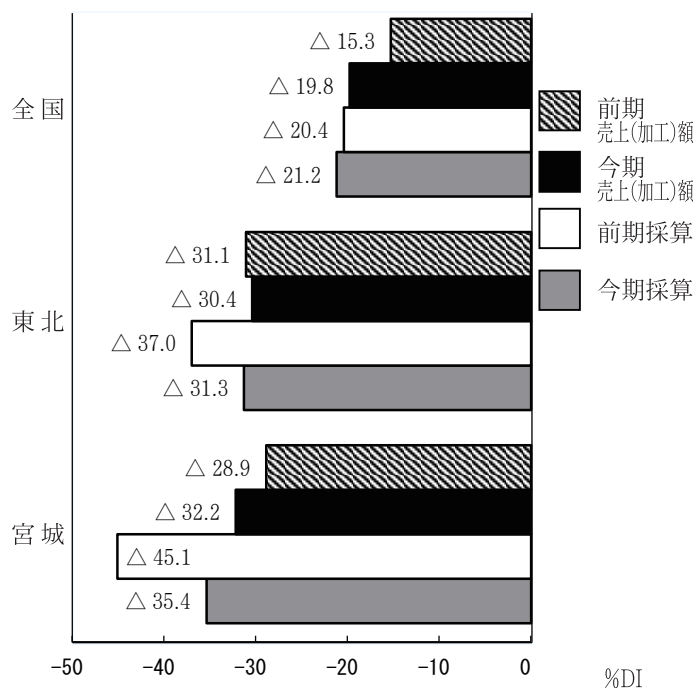
③ 全国・東北ブロックと本県の景況比較

今期と前期の比較では売上（加工）額DIでは全国、宮城で悪化、東北で若干改善した。その悪化度は、全国、宮城の順であった。

採算DIの比較では、全国で若干の悪化、東北、宮城で改善した。その改善度は、宮城、東北の順であった。

本県回答事業者からは「親機の設備投資が低調でその影響を受けている」（金属加工業）や、「大手企業が専門職を必要としない製品を提供し始めている」（製畳業）などのコメントがあった。

図1-6 全国東北宮城売上（加工）額・採算比較（前年同期比）



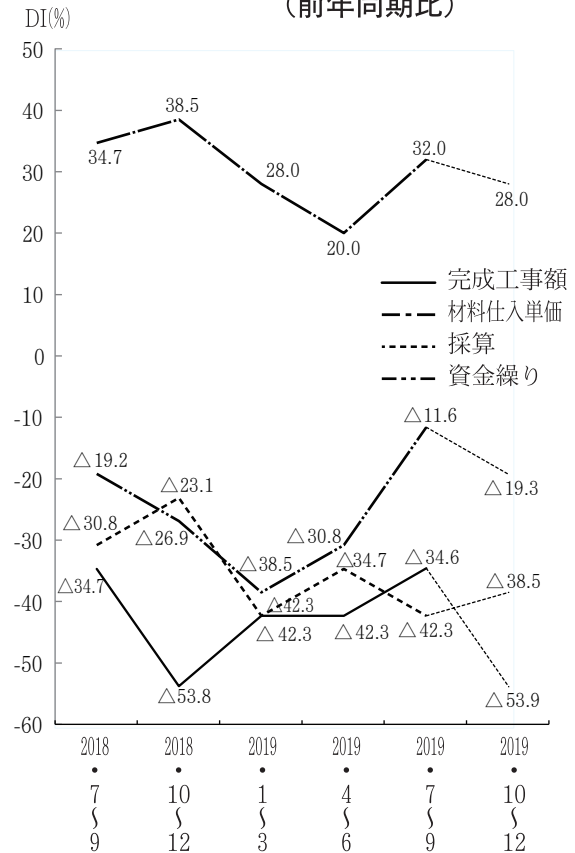
(2) 建設業の動向

① 主要景況項目から見たあらまし

完成工事（請負工事）額D Iは今期△34.6（前期△42.3）と7.7ポイント改善、採算D Iは今期△42.3（前期△34.7）で△7.6ポイント悪化、資金繰りD Iは今期△11.6（前期△30.8）と19.2ポイント改善した。

材料仕入単価D Iは今期32.0（前期20.0）と前期より12.0ポイント上昇した。

図2-1 主要景況項目の推移
(前年同期比)



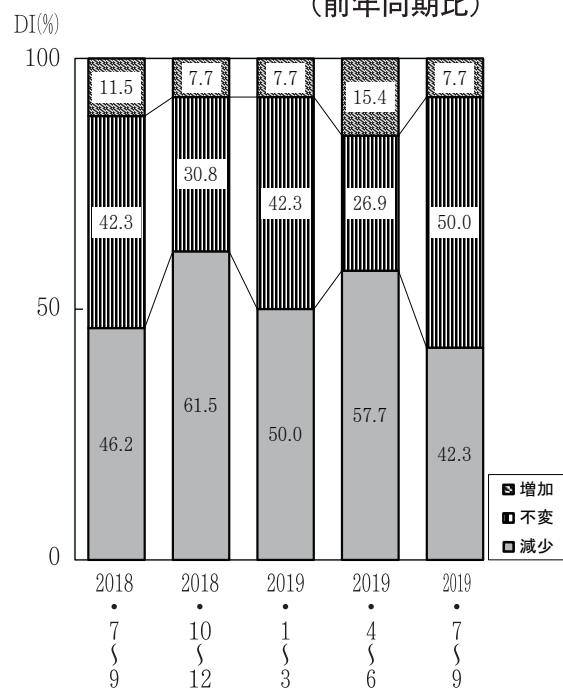
② 主要景況項目別状況

(a) 完成工事（請負工事）額

「増加」と回答した企業は全体の7.7%（前期15.4%）で△7.7ポイント減少、「減少」と回答した企業も42.3%（前期57.7%）で△15.4ポイント減少した。

その結果、完成工事（請負工事）額D Iは△34.6（前期△42.3）と7.7ポイント改善した。

図2-2 完成工事額の状況
(前年同期比)

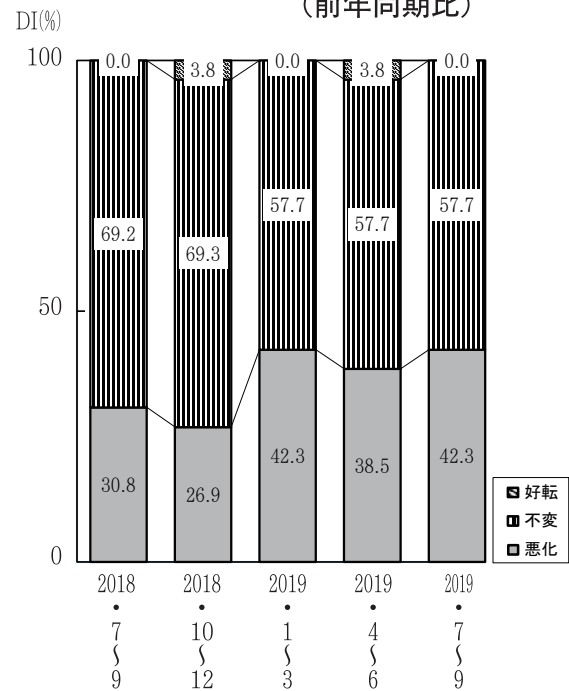


(b) 採 算

「好転」と回答した企業は全体の 0.0% (前期 3.8%) で△3.8 ポイント減少、「悪化」と回答した企業は全体の 42.3% (前期 38.5%) で 3.8 ポイント増加した。

その結果、採算DIは△42.3 (前期△34.7) と前期より△7.6 ポイント悪化した。

図 2 - 3 採算の状況
(前年同期比)



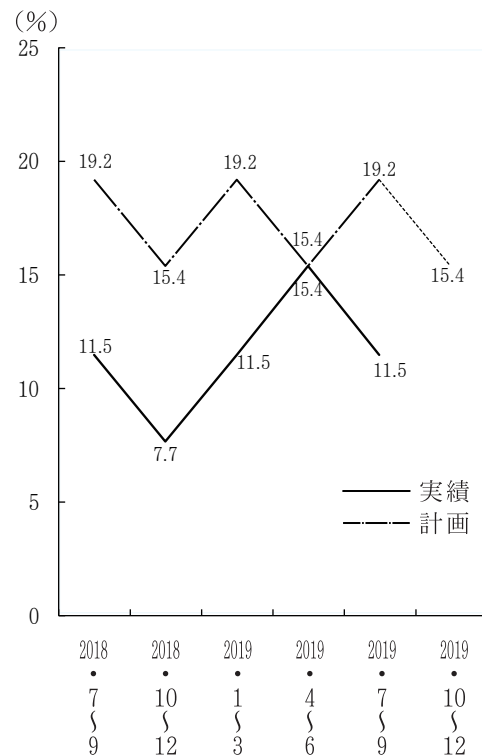
(c) 設 備 投 資

今期の新規投資実施（実績）企業割合は全体の 11.5% (前期 15.4%) で、前期より△3.9 ポイント減少した。

その設備内容は、建設機械、車両・運搬具、OA機器、福利厚生施設であった。

来期に設備投資を計画している企業は全体の 15.4%で、その設備内容は、土地、建物、建設機械、車両・運搬具、OA機器、福利厚生施設となっている。

図 2 - 4 設備投資の状況

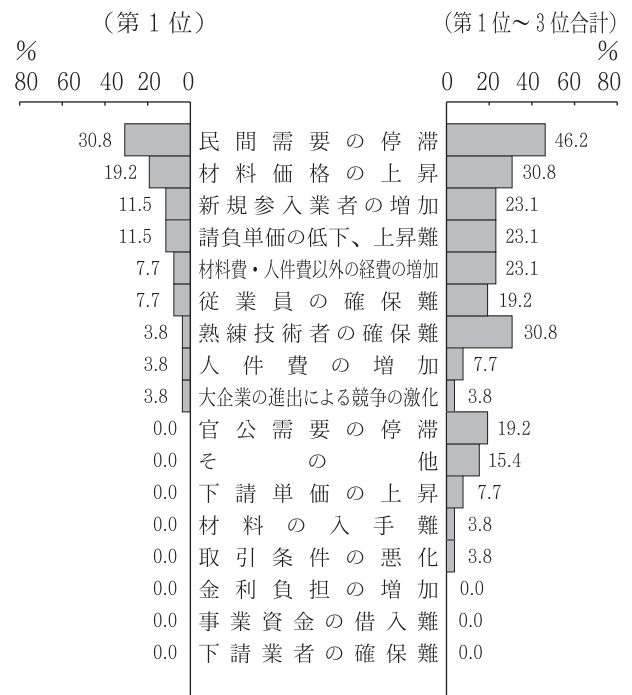


(d) 経営上の問題点

重要度第1位の問題点は「民間需要の停滞」が30.8%で、次いで「材料価格の上昇」が19.2%、「新規参入業者の増加」と「請負単価の低下、上昇難」が同率11.5%が続いた。

重要度第1位から第3位合計でも、「民間需要の停滞」が46.2%（複数回答計、以下同じ）で最上位、次いで「材料価格の上昇」と「熟練技術者の確保難」が同率30.8%で続いた。

図2-5 経営上の問題点



③ 全国・東北ブロックと本県の景況比較

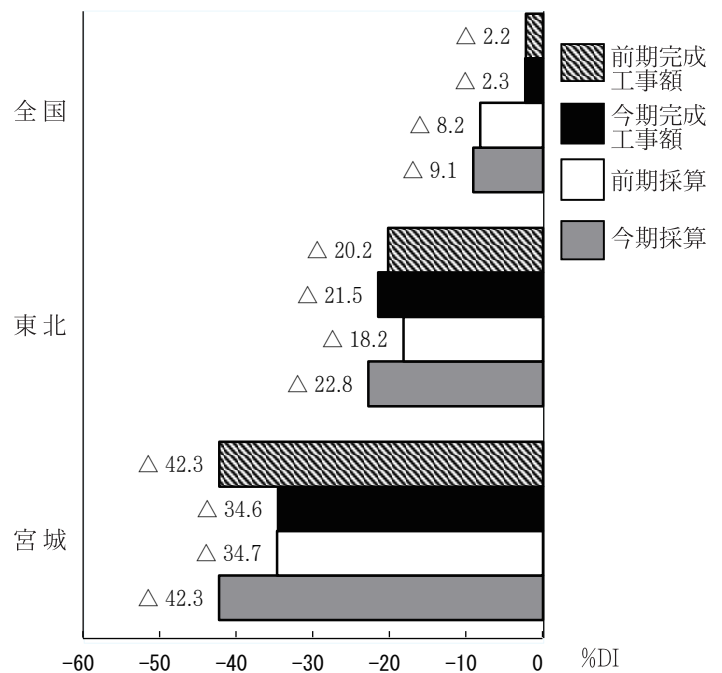
今期と前期との比較では、完成工事額D Iは全国で若干の悪化、東北で悪化、宮城では改善した。

採算D Iの比較では、全国で若干の悪化、東北、宮城で悪化した。

その悪化度は宮城、東北の順であった。

本県回答事業所からは「景気がよくなっていないため事業継続に不安」や「盆前までは忙しかった工事も、盆過ぎには一段落」などのコメントが寄せられた。

図2-6 全国東北宮城完成工事額・採算比較（前年同期比）



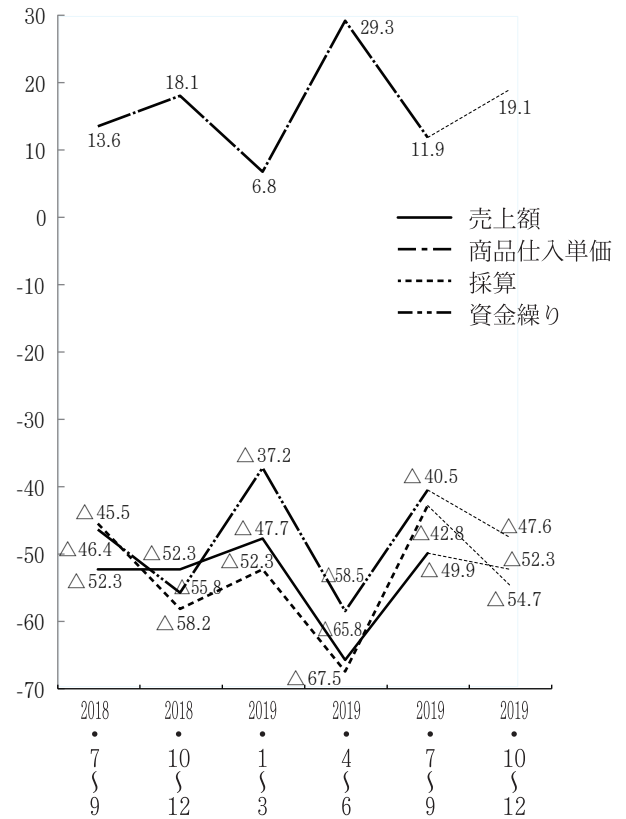
(3) 小売業の動向

① 主要景況項目から見たあらまし

売上額D Iは今期△49.9（前期△65.8）と前期より15.9ポイント改善、採算D Iも今期△42.8（前期△67.5）で24.7ポイント改善、資金繰りD Iでも今期△40.5（前期△58.5）で18.0ポイント改善した。

商品仕入単価D Iは今期11.9（前期29.3）となり、△17.4ポイント下落した。

図3-1 主要景況項目の推移
(前年同期比)



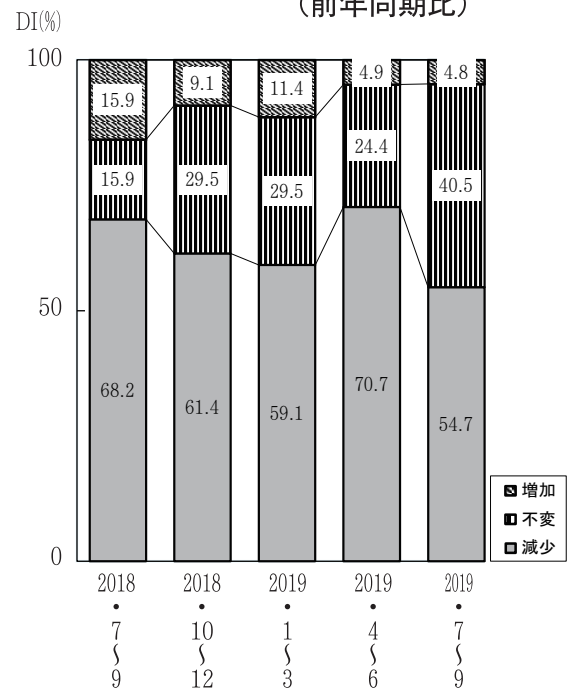
② 主要景況項目別状況

(a) 売上額

「増加」と回答した企業は、今期は全体の4.8%（前期4.9%）で△0.1ポイントの若干の減少、「減少」の回答は、今期は全体の54.7%（前期70.7%）で△16.0ポイント減少した。

その結果、売上額D Iは今期△49.9（前期△65.8）と前期より15.9ポイント改善した。

図3-2 売上額の状況
(前年同期比)

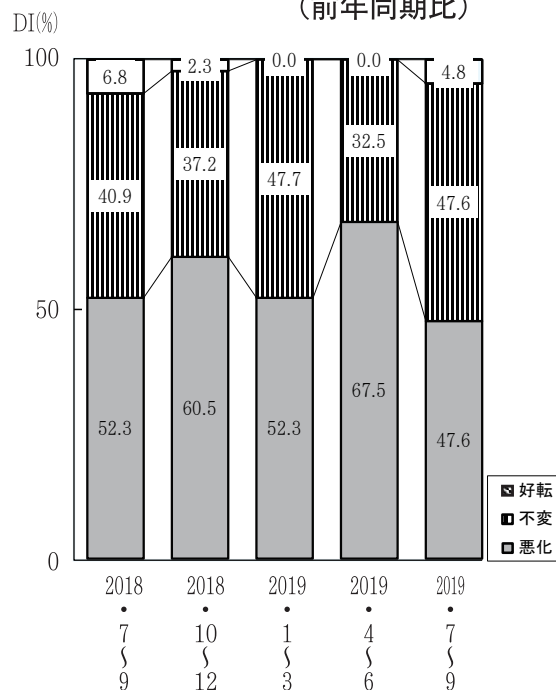


(b) 採 算

「好転」と回答した企業は、今期は全体の4.8%（前期0.0%）と4.8%増加、「悪化」の回答は、今期は全体の47.6%（前期67.5%）で△19.9ポイント減少した。

その結果、採算DIは今期△42.8（前期△67.5）で、前期より24.7ポイント改善した。

図3-3 採算の状況
(前年同期比)



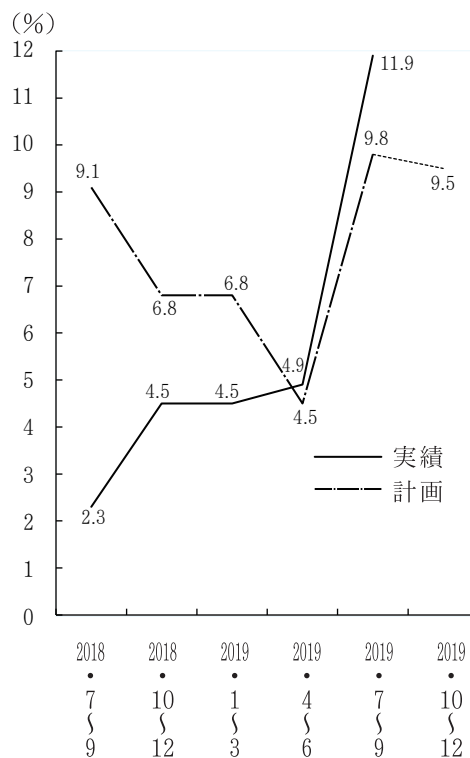
(c) 設 備 投 資

今期の新規投資実施（実績）企業割合は、今期は全体の11.9%（前期4.9%）で、前期より7.0ポイント増加した。

その設備内容は、店舗、販売設備、車両・運搬具、付帯施設であった。

来期に設備投資を計画している企業は全体の9.5%で、その設備内容は、店舗、販売設備となっている。

図3-4 設備投資の状況

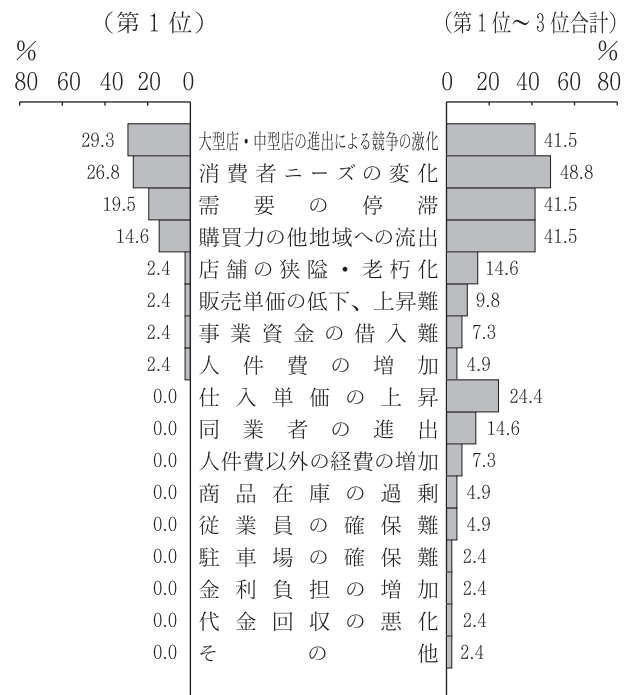


(d) 経営上の問題点

重要度第1位は「大型店・中型店の進出による競争の激化」で29.3%、次いで「消費者ニーズの変化」が26.8%、「需要の停滞」が19.5%で続いた。

重要度第1位から第3位合計では、「消費者ニーズの変化」が48.8%(複数回答合計、以下同じ)で最上位、次いで「大型店・中型店の進出による競争の激化」、「需要の停滞」、「購買力の他地域への流出」が同率41.5%で続いた。

図3-5 経営上の問題点



③ 全国・東北ブロックと本県の景況比較

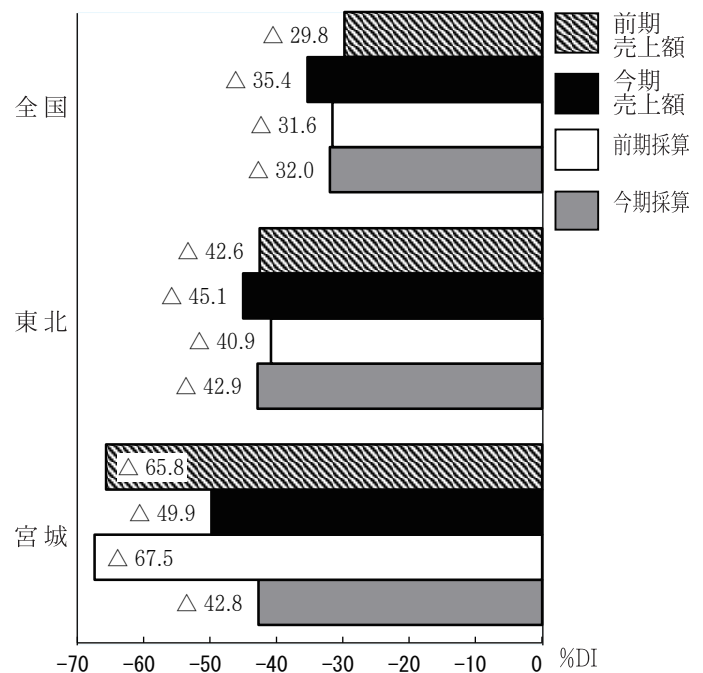
今期と前期の比較では、売上DIは全国、東北で悪化、宮城では改善した。

その悪化度は全国、東北の順であった。

採算DIでは全国で若干の悪化、東北で悪化、宮城では改善した。

本県回答事業所から「アフターが重要な補聴器等で売り上げを確保。他店の閉店で遠方からの時計修理依頼が増加」(時計販売)や「高齢者へのニーズに応じて客先を確保」(電気品販売)などのコメントが寄せられた。

図3-6 全国東北宮城売上額・採算比較(前年同期比)



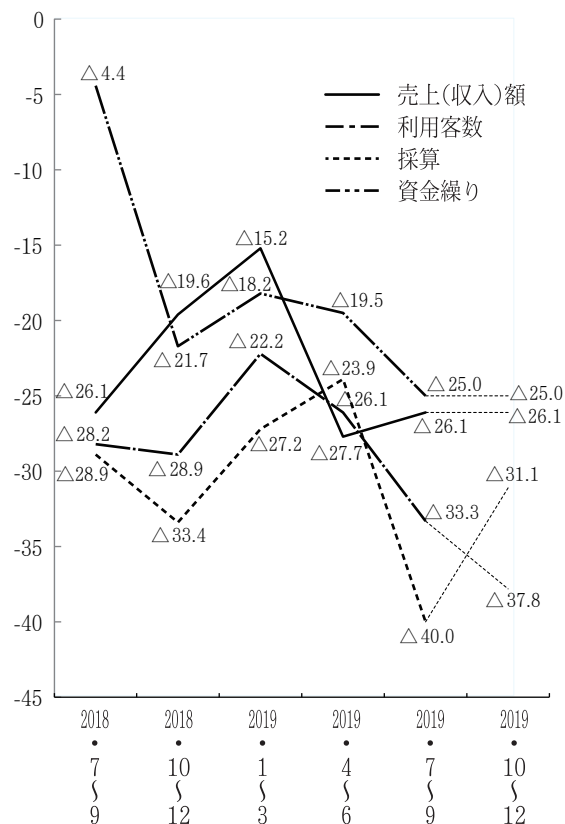
(4) サービス業の動向

① 主要景況項目から見たあらまし

売上（収入）額D Iは今期△26.1（前期△27.7）で1.6ポイント改善、採算D Iは今期△40.0（前期△23.9）で△16.1ポイント悪化、資金繰りD Iでは今期△25.0（前期△19.5）で△5.5ポイント悪化した。

利用客数D Iは今期△33.3（前期△26.1）で△7.2ポイント減少した。

図4-1 主要景況項目の推移
(前年同期比)



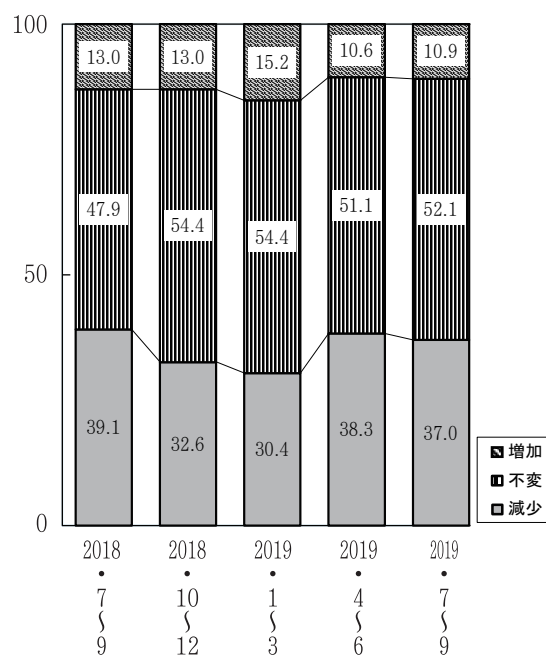
② 主要景況項目別状況

(a) 売上（収入）額

「増加」と回答した企業は、今期は全体の10.9%（前期10.6%）で前期より0.3ポイント増加、「減少」の回答は今期37.0%（前期38.3%）で△1.3ポイント減少した。

その結果、売上（収入）額D Iは今期△26.1（前期△27.7）で前期より1.6ポイント改善した。

図4-2 売上（収入）額の状況
(前年同期比)

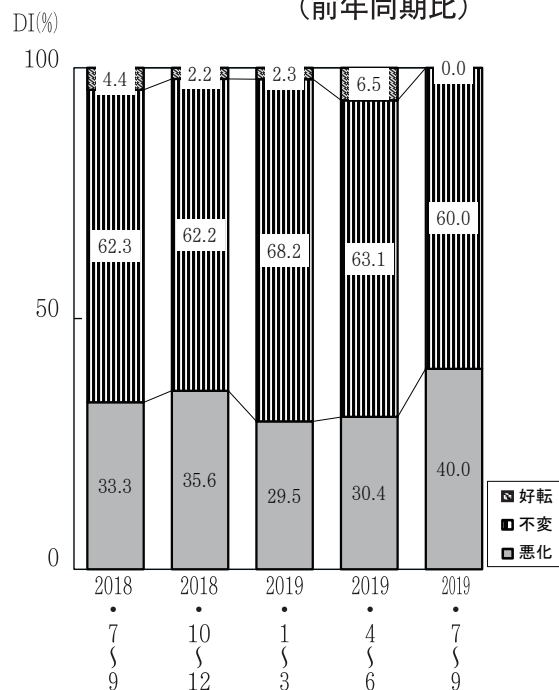


(b) 採 算

「好転」と回答した企業は、今期は全体の0.0%（前期6.5%）で△6.5ポイント減少、「悪化」と回答した企業は今期40.0%（前期30.4%）と9.6ポイント増加した。

その結果、採算DIは今期△40.0（前期△23.9）で前期より△16.1ポイント悪化した。

図4-3 採算の状況
(前年同期比)



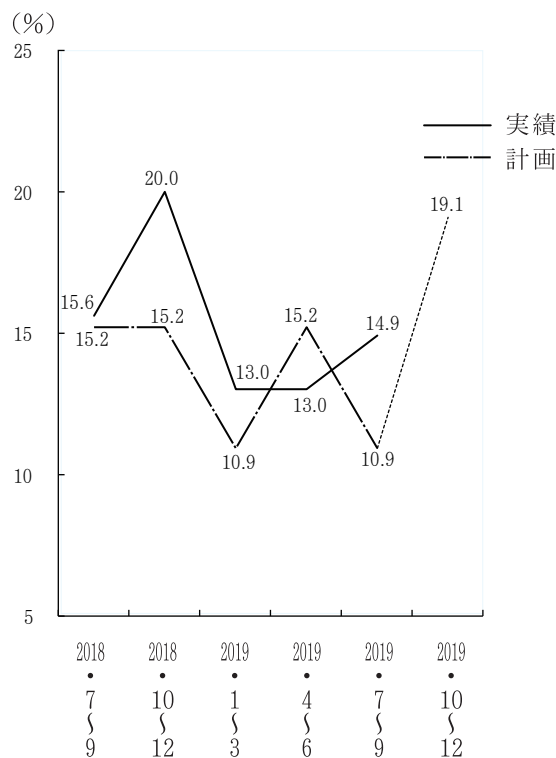
(c) 設 備 投 資

今期新規投資を実施（実績）した企業は全体の14.9%（前期13.0%）で、前期より1.9ポイント増加した。

その設備内容は、建物、サービス、付帯施設であった。

来期に設備計画している企業割合は全体の19.1%で、その設備内容は、建物、サービス、付帯施設、OA機器、その他となっている。

図4-4 設備投資の状況

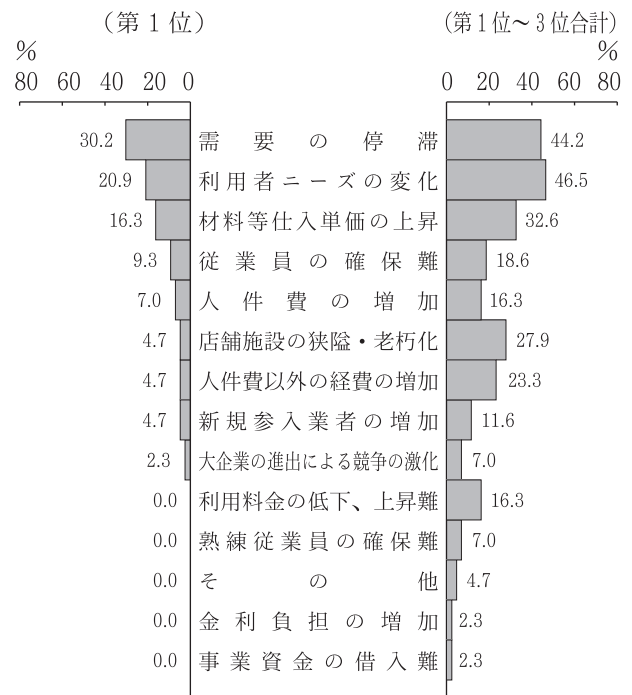


(d) 経営上の問題点

重要度第1位は「需要の停滞」が30.2%で、次いで「利用者ニーズの変化」が20.9%、「材料等仕入単価の上昇」が16.3%で続いた。

重要度第1位から第3位合計では「利用者ニーズの変化」が46.5%（複数回答合計、以下同じ）で最上位、次いで「需要の停滞」が44.2%、「材料等仕入単価の上昇」が32.6%で続いた。

図4-5 経営上の問題点



③ 全国・東北ブロックと本県の景況比較

前期と今期の比較において、売上(収入)DIは全国で悪化、東北、宮城で改善した。

その改善度は東北、宮城の順であった。

採算DIでは、全国、宮城で悪化、東北で改善した。

その悪化度は宮城、全国の順であった。

本県回答事業所からは「地元の方のニーズに応える接客、サービスで利益を確保。新たに従業員を確保し、更なる充実を図る」(飲食業)や「部品の性能が上がっており、修理需要が減少気味」(自動車整備業)などのコメントが寄せられた。

図4-6 全国東北宮城売上(収入)額・採算比較(前年同期比)

